

# 新エマルジョン開発

## 大成ファイン カチオンと アニオン 両者の長所併せ持つ

大成ファインケミカル(千葉・稲生豊人社長)は、新ポリマイオンコンプレックスエマルジョン「AKWシリーズ」の開発に成功した。高い機能性と幅広いニーズへ対応できるように新素材を開発し、新規市場への参入を目指す。

同製品は、カチオンとアニオンの両方の官能基を併せ持つ。カチオンの長所である基材への密着性の高さを損なわず、耐水性も向上

している。カチオンエマルジョンはアルカリ基材への密着性の良さなど、多くの技術者に認識されているもののアニオン系塗料と接触するとゲル化を起してしまふなどの難点もあり、そのため、排水問題も含め、使用が敬遠されるケースが多々あった。また塗料設計上、カチオン系の添加剤が少なく、設計に幅がなかった。AKWシリーズは、カチオン系の難点を克服できる

。写真。カチオン成分を持ちながら、アニオンエマルジョン、アニオン系添加剤とブレンドが可能であり、塗料設計上で非常に選択肢が増える。官能基を極力低減させ、耐水性の向上を図っている。塗工ラインなどでは、カチオンの性能を認識しているのにもかかわらず、前述の理由などで採用を断念してきケースには、非常に有効である。また、水系化へのシフト

が速い金属用途にも有効である。亜鉛めっきなどの基材への密着も良好である。防錆剤の相溶性も良く、幅広い設計が可能となった。用途や要望に合わせた構成比率を変更する設計開発体制を整え、ユーザーである開発設計者にとって利便性が高い。同社では、金属用途、塗料系建材、携帯電話・車両やフィルム等の高性能プラスチック分野などへの幅広い用途での利用を見込んでおり、3年後に年間1500トの販売を目指している。問い合わせは同社(公)3・3691・3111まで。



比率を変更する設計開発体制を整え、ユーザーである開発設計者にとって利便性が高い。同社では、金属用途、塗料系建材、携帯電話・車両やフィルム等の高性能プラスチック分野などへの幅広い用途での利用を見込んでおり、3年後に年間1500トの販売を目指している。問い合わせは同社(公)3・3691・3111まで。